

はばたけ!

帯広市立大空中学校だより

# 星と森の大空へ

No.8 令和元年 6月21日発行

～ 学校教育目標 ～

北の文化を拓く

「明るく健康な心身と個性

豊かな英知を育む」

## 努力は「たし算」、協力は「かけ算」

校長 黒島 俊一

「努力はたし算、協力はかけ算」という言葉があります。この言葉は、子どもたちのみならず、大人も、一人一人が生きていく、生活を送る上で大切なことのとたとえて表現したものです。

「努力はたし算」は、自分の努力は決して裏切らず、一つ一つ着実にプラスが積み重なるもので、決して消えません。小さな努力でもそれを続けていけば、たし算の答えのように大きくなっていきます。毎日の家庭学習や分厚い本の読書などもその成果がみえやすいものです。たとえ苦手なことでも、逃げずに、避けて、向き合いながらやっていると道が開けてきます。つまり、努力した結果は必ず増えていくことを信じることで道は開けてくるということです。

「協力はかけ算」は、他者との協力は、一人一人個人の頑張り以上に「相乗効果」を生み出します。まさに学校教育の醍醐味です。一人でやるよりも、多人数で力をあわせてやるほうが、かける人数分以上に早く終わった経験もあると思います。一人のたし算よりも大きい結果になります。その一方で、掛け算には怖いところがあり、一人でも協力しない人がいると、「かけるゼロ」で、その成果はゼロになってしまうということです。

学校はみんなで学習したり、遊んだりしたりするところです。その学びや活動の「質」を高め、効果をあげていくためには、一人一人の意識の高まりが必要です。

みんなで「協力」しあって学び合って高め合うのが学校であり。学校は学びの集団です。失敗や間違いを笑うことや、いじめにつながる「冷やかし」や「からかい」なども含め、こういうみなさんは、「ゼロ」の人、つまり、かけ算で「ゼロ」にしてしまう人です。勉強は間違ってもいいですし、失敗してもいいものです。だめなのは、うまくいかなかった人を笑ったり馬鹿にしたりする人です。一人ひとりが同じ思いで協力し合うことができれば、学び合い、高め合いの大きな力ある集団になります。一人ひとり小さな力でも、その力を結集すれば1人ではできないこともできるようになります。

これからも、みんなと協力しながら、失敗したり間違ったりする友だちにも「大丈夫だよ、がんばって」と励ましてあげる、寛容な心をもつ「大空の子」でいてほしいと思います。

### <参考文献>

広辞苑（岩波書店） 思いに届く校長の言葉（昌三出版）



6月19日中間テスト風景から  
努力はたし算。将来の夢を見据えながらがんばれ!



自転車による登校風景から。  
ルールを守る「協力」かけ算で自転車通学が実現。

# 大空地区義務教育学校開校に向けて その2

## ～ 目指す子どもの姿 アンケートのお願い～

(〆切りは6月27日)

大空地区義務教育学校準備協議会が過日立ち上がり、今年度の取組として、校名の決定や校歌・校章などの決定に加え、制服やジャージのあり方、選定についても話題にしていく旨、前号でお知らせしておりました。

小学校でも中学校でもない、新たな学校「義務教育学校」の設立は、各方面からの注目度が高いこともあり、学校、家庭、地域などたくさんの方のみなさんの思いを寄せながら、一つ一つ慎重に論議を積み重ね、よりよい学校づくりにむけた準備が必要となります。

本日は、いよいよ具体的な協議を進めていくにあたってのアンケートのお願いです。(本日配布の2枚もの別紙プリントをご覧ください)

大きくは、①現在の大空の子ども達のよさと課題、②新学校開校に向けて、期待したい子どもの姿 について保護者のみなさんのお考えを伺うものです。

いただいたアンケートは、今後の新しい学校づくりの土台となる基礎資料となり、大変貴重なものです。どうぞお声を聞かせて下さい。

なお、今後も内容によってお考えをうかがうこともありまでするので、ご理解とご協力をよろしくお願ひします。

特別活動としての修学旅行は、通常の学校生活で行うことの出来る教育活動は除き、その環境でしか実施できない教育活動を豊富に取り入れるように工夫することが求められています。

## 修学旅行 その2

また、子ども同士のかかわりを深め、互いのことをより深く理解し、折り合いを付けるなどして人間関係などの諸問題を解決しながら、強調して生活することの大切さを学ぶ事も含まれています。

本校の修学旅行は市内で唯一の東北コース、またフェリー泊や北海道新幹線の利用、そして東日本大震災の被災地見学と特徴的な内容が含まれていますが、見学地の体験や友達との関わり、集団としての学び、公共のルールの学びなど広く、深い学びになりました。保護者の皆さんの物心にわたるご理解とご協力に感謝いたします。

写真中右：みんなで身を寄せ合って仲良く布団。  
写真右：南三陸町、高野会館（民間震災遺構）。4階付近までの津波を受けながら、300名以上の人々を救った建物がそのまま残されています。



写真左：フェリー船中泊から  
写真中左：1日目夕食バイキングの食後テーブル



本校の特色ある取組の一つ「飛翔ノート」が新聞記事になりました。家庭学習スペースも取り入れ、年々様式が深化している飛翔ノートに、生徒全員で取り組んでいます。担任は毎日一人一人のノートに目を通していますが、子どもの学びをつくり、担任と心と心のキャッチボールをしながら、豊かな育みを目指しているのが「飛翔ノート」の取組です。

### 地域との絆 「飛翔ノート」 大空中

帯広大空中中学校（黒島俊一校長、生徒172人）の自慢は、地域との結び付きを象徴する「飛翔（ひしょう）ノート」だ。大雨の後、校庭の水たまりに校舎が鏡映しになった美しい景色を地域住民が撮影。「いいものがある」と学校に持ってきてくれた写真を表紙にしている。2012年度から生徒に配られるようになったノートは、1～3年の全生徒が1年に1冊使う。生徒が1日の反省や日記、明日の持ち物を書き込んで、先生がコメントを返す「生活ノート」に近いものだが、今年からは家



庭学習の内容も記録することになった。生徒たちは「家庭学習をやらなきゃいけなくなった」と言いながら、「テスト前に役立つよ

うになった」（生徒会長・松井彩月さん）、「先生との交換日記みたいで、ちょっとうれしい」（副会長・日高優利亜さん）と愛着も感じている。（奥野秀康）

令和元年六月十一日 十勝毎日新聞  
特集記事「マチ・マイ」大空・農村地区編から